

Special  
Interview

このころ  
のくすり  
vol.2

奈良薬師寺執事

おおたに てつじょう  
大谷 徹奘 さん

# よつぽどの縁。

17歳で奈良薬師寺の故高田好胤管長に師事し、  
薬師寺の僧侶となって約30年。

現在は、全国各地で説法を行っておられます。

聴けば、背筋がピンと伸び、元気をいただきます。

徹奘先生の言葉はまさに「このころのくすり」です。



「出ていけー!」という

師匠の言葉を待っていた

私の師匠・故高田好胤薬師寺管長は、仏の道では名の知れ渡ったお方であり、私にとって憧れの存在でした。テレビ出演する著名人でありながら、デパートの靴売り場などにも法話に出かけ、人々を魅了してしまう師匠を、子供ながらに「かっこいい」と思いました。そして自分もお坊さんになろうと決心し、17歳で弟子入りしたのです。でも薬師寺の修行は地味で辛く、何度「逃げよう」「やめよう」と思ったか。「師匠は好きだけど、寺の環境は大嫌いだ」と毎日、思いながら生活をしていました。薬師寺は東京に別院があり、師匠の随行で東京へ行くようになると、夜に寺を抜け出しては飲み歩くようになりました。今の私はお酒もお肉もいただきませんが、当時はずいぶん深酒もしました。翌朝は酒の臭いがぶんぶん残るほどでした。私は逃げ出す根性がなかったので「出ていけ!」という言葉を待っていたのです。ある朝、いつにもましてひどい二日酔となり、割れるような頭痛の中で「今日こそ私を寺から追い出してくれるだろう」と思っていると、師匠は静かにこう言われました。

